

〔目的〕

今回の教育改革では、小・中・高を通して男女共修の家庭科が実現した。新しい教育課程の方向を見ると、家庭科教育では体験的・実践的な内容が大きな比重を占めており家庭科教員を養成する大学の課題は大きい。家庭科教員の資質形成に教育現場と大学とが共同で関わる機会の一つに教育実習があるが、今回は大学の教員養成カリキュラムと大学生が教育実習で指導を受ける内容との関連を調査することによって家庭科教員に必要な資質の検討資料を得たいと考えた。

〔方法〕

昭和63年～平成元年に教育実習を行った大学生を対象に、教育実習録・学習指導案・実習報告会研究発表資料等を分析し、本学カリキュラムとの関連を調べた。

〔結果〕

中学・高等学校とも、圧倒的に食物領域を担当していた。理由としては、本学が栄養学を専門とする大学であるため、実習校の指導担当教員が、本学学生に対して食物領域を配慮して選択し、研究授業等に割り当てているためと考えられる。